北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	論理と思考B	科目コード	1117	単位数	3
担当者名	麻生　尚志	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BPh202	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

すべての学問は哲学から始まりました。それが、ガリレオやニュートンに代表される17世紀の第一次科学革命によって、物理学などの自然科学が哲学から独立していきました。それらの17世紀以降の自然科学を近代科学と呼びます。近代科学の意味することや限界を探る哲学の分野に科学哲学というものがあります。科学哲学に大きな影響を与えたウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』を読み、また、科学についての科学哲学の論争などを紹介していきたいと思います。それによって、私たちが正しいと信じているいわゆる「科学的知識」がどういった性格のものであり、どういった限界があるのかわかるようになります。そのことが「いまの世界が正しい」「自分だけが正しい」という驕った態度への反省にもなりますし、また「いままで知らなかった世界」や「はじめて聞いたこと」について謙虚に対応するきっかけになります。

到達目標

歴史上、人々が自然について、ひいては世界についてどのように思考しその理論を作り上げてきたかを理解し、それを基礎に自分で世界について思考する基本的姿勢を身につけることを目標とします。論理的な問題については、実践的な問題解決能力を身につけることを目標とします。それらを通じて、真理表など簡単な記号論理の証明ができるようになります。また、複眼的なものの見方を身につけることができます。

授業内容

1週目 ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（１）「事実」「事態」その他について
2週目 ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（２）論理空間について
3週目 ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（３）語ることができないこととはなにか
4週目 論理実証主義の源流（コントの実証主義、マッハの現象主義、イギリス経験論）
5週目 論理実証主義＋試験
6週目 形而上学と科学、ポパーの反証可能性
7週目 科学的実在論と反実在論
8週目 クワイン「経験主義の二つのドグマ」
9週目 クワイン「なにがあるのかについて」
10週目 クワイン「自然化された認識論」＋試験
11週目 ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論
12週目 クーン『科学革命の構造』
13週目 分析哲学と現代論理学、現代論理学の基礎概念と論理的思考の訓練
14週目 数学基礎論の展開
15週目 人間はなにを知りうるか＋試験
16週目 試験予備日（第15週で受験できなかった人のための）＋答案返却（希望者のみ）

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の最後で次回予告をしますので、「え、どういうことだろう」と想像を膨らませてください。（毎回30分の予習）また、毎回プリントをお渡ししますので、復習として専門用語などについて確認しておいてください。また、講義後は、講義した内容について友達と議論をしたり、自分であれこれ「別のようにも考えられる」など熟考してください。また、質問への回答プリントを参考に、「さらに深く理解する」こともしてください。（１時間半の復習）

成績評価の方法・基準

試験を３回行います。それぞれ３０点、３０点、４０点とし、全体で１００点として評価します。なお、出席を重視しますので、各試験までの出席が三分の二以上を評価の条件とします。

履修上の留意点

講義では、いろいろな世界像や理論が示されますから、それら相互の類似点と相違点、世界像と思考のあり方との結びつきに注意してください。記号論理の問題については、自分の手と頭を使って問題を解くようにしてください。講義中にも練習問題を出します。

課題に対するフィードバックの方法

試験を採点、添削の上返却します。

テキスト

テキストは用いません。適宜プリントをお配りします。

参考書

ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（岩波文庫）2003年 858円

更新日付

2026/02/25 10:17